浜松開誠館中学校高等学校SDGs部

開誠館のSDGs活動～生徒の思いを形にする活動～

取組概要

●SDGs部では「生徒の思いを形にする」という活動理念のもと、SDGsの達成に向けて活動しています。

●浜松市はフェアトレードタウンに認定されていますが、市民のフェアトレードの認知度はまだ低いと考え、フェアトレード学習などに取り組んでいます。

●国内外の学校とオンラインで気候変動について話し合う「小中高全世界気候サミット」の企画・運営や、SDGs部の部員が小・中学校に赴いて講師としてSDGs学習の入門講座を行っています。

はじめたきっかけ

授業の中でフェアトレードや気候危機・再エネについて学び、何か行動できないかと思い立ったことがきっかけです。浜松はフェアトレードタウンであり、日照時間が長いことでも有名で、ソーラーパネルでの発電量も多い地域です。そんな浜松で高校生でもできることがあると思い、常に部活でアイデアをだしあっています。

ポイント

授業の中で学んだフェアトレードや気候変動に対し、高校生でもできることがないか部活でアイデアを出し合い、実際の行動に移しています。

フェアトレードコーヒーの販売や、気候マーチでは環境保護に関するメッセージを書いたプラカードを掲げてまちなかを行進、小中学校でSDGsの出張授業をするなど、行動を通じ、考え方を普及させています。

地域課題と取組成果

フェアトレードの認知度向上を目的に、地域のコーヒー店とコラボレーションし、フェアトレード商品として、オリジナルのドリップバッグを作成・販売しています。フェアトレードコーヒーの販売では、初めて購入するという方も多く、そうした方々にフェアトレードの考え方を普及させることができました。また「STOP温暖化若者会議」では、市内の他校の生徒と環境問題やフェアトレードについてグループディスカッションをしました。SDGsに取り組む仲間ができ、他校の活動を知ることもできました。「小中高全世界気候サミット」は、Z世代がこれからの未来を考えるイベントで、県内だけでなく、長野県や鹿児島県の高校、ニュージーランドやモンゴルの高校生ともオンラインで交流し、世界にはまだ知らない問題がたくさんあることを学びました。

●取組形態　希望者による部活動制
●発足年　2019年
●部員数　19名
●HP URL　https://www.kaiseikan.ed.jp/

みんなで目指すSDGs!!
受賞者インタビュー

浜松開誠館中学校高等学校 SDGs部

開誠館のSDGs活動~生徒の思いを形にする活動~

●「グローバル気候マーチ」が有名ですが、どのようにして始まったのですか？

グローバル気候マーチは、2019年にスタートしました。当時、環境活動家であるグレタ・トゥンベリさんの訴えに共感した先輩たちが、気候変動の危機感をもっと多くの人に伝えたくて始めたと聞いています。2023年のグローバル気候マーチは、開誠館の中学生と高校生の生徒約1000人で行いました。学校で決起集会を行った後、各生徒が「SAVE THE EARTH」や「ゴミをなくそう」などと書いた自作のプラカードを掲げ、学校からザザシティ、市役所まで気候危機、自然環境の保護を呼びかけながら行進しました。プラカードは段ボールで作るので、マーチの後でリサイクルできます。ゴールの浜松城本丸南広場では、具体的な気候危機対策の実施を求める提言書を浜松市長に手渡しました。

●他には、どのような活動をしていますか？

2019年の気候マーチで浜松市に提言したことで始まった「STOP温暖化若者会議」があります。これは、オイスカ高校や浜松聖星高校、浜松城北工業高校など、市内の高校が参加し、環境問題やフェアトレードなどについてグループディスカッションするイベントです。準備期間中は、何度もオンラインミーティングを重ねて開催しました。準備は大変でしたが、SDGsに取り組む仲間ができたり、他校の活動を知ることができたりしたので、これからの活動に生かしていきたいです。

●活動を通じて、どのような学びを得られましたか？

SDGsは意外と身近なところにあって、一人ひとりの意識が変わることで達成できると感じました。私はフェアトレードに興味があり活動していますが、フェアトレードは、知名度はあるものの実際に商品を買ったことがある人は少ないというのが現状です。理由としては、フェアトレード商品はそうではない商品と比べて値段が高かったり、お店にあまり置いていなかったりすることが挙げられます。そこで、市内でオーガニックコーヒーを販売する「豆乃木」さんとコラボレーションして、フェアトレードのドリップコーヒーを開発、学園祭や地域のイベントで販売することにしました。実際に試飲してもらいながらコーヒー豆の背景を説明することで、フェアトレードをより理解してもらえたのではないかと思います。個人的にも、コーヒーについて学ぶことができましたし、多くの人にフェアトレードを知っていただけたのがうれしかったです。

また、印象に残っているのは「小中高全世界気候サミット」です。これは、僕たちZ世代がこれからの未来を考えるイベントで、県内だけでなく、長野県や鹿児島県の高校、ニュージーランドや姉妹校であるモンゴルの高校からもオンラインで参加がありました。学生が運営しているので、通訳は英語の得意な生徒にお願いしました。私はそのイベントで司会のサポートをしたのですが、とても緊張しました。でも、サミットに参加して気付いたのは、地域や国が違えば、抱える課題も違うということです。世界にはまだ知らない問題がたくさんあることを知り、とても勉強になりました。SDGs部では、小学生や中学生向けに出張講座もしています。楽しく学んでもらえるようクイズ形式にしたり、できるだけ難しい言葉を使わずに説明したり、時間配分や資料の分かりやすさなども毎回工夫しながら、私たち自身も多くのことを学んでいます。児童や生徒たちの「すごい！」という反応や感謝の手紙が、私たちのモチベーションになっています。